

道徳指導案

研究主題

心の国際化から、共に生きる社会へ
—国際性豊かな児童生徒の育成を目指して—

目指す児童生徒像
自分のよさを認め、互いに尊重し、協力し合って、共に生きようとする子

<授業展開>

日時：平成24年6月19日（火）

14：00～14：45

主題名：自国と他国の伝統や文化

内容項目4－（6）国際理解・親善と人類愛

資料名『のりのおにぎり（改作）』

場所：3年2組教室（2棟2階）

授業者：寺崎千郷

<協議会>

時間：15：00～16：30

場所：図書室

- 1 主題名 自国と他国の伝統や文化 【内容項目 4－(6) 国際理解・親善と人類愛】
資料名『のりのおにぎり (改作)』

- 2 主題について

本主題は、学習指導要領の内容4－(6)「我が国の伝統と文化に親しみ、国を愛する心をもつとともに、外国の人々や文化に関心をもつ」を中心価値としている。これは、国と国との関わりに関するものであり、我が国の伝統と文化を大切にし、国を愛する心をもつとともに、外国の人々や文化に関心をもった子どもを育てようとする内容項目である。この内容項目は、低学年では4－(5)で、「郷土の文化や生活に親しみ、愛着をもつ」ということを通して育てられ、高学年の4－(8)の「外国の人々や文化を大切にする心もち、日本人としての自覚をもって世界の人々と親善に努める」につながっていく。

国を愛する心とは、そこではぐくまれた我が国の伝統と文化に関心もち、それらと現在の自分とのかかわりを理解する中から芽生えてくるものと考え。そこで、中学年においては、特に我が国の伝統と文化に関心もち、国を大切にし、愛する心を育てるとともに、外国の人々や文化にも関心を持つことができるようにしていくことが大切である。

しかし、子どもたちは日常生活の中で、自国と他国の伝統や文化について触れる機会が少なく、はっきりと理解していないことが多いのではないかと考える。また、現在の子どもたちを取り巻く環境を見ると、自クラスには外国籍(マレーシア、中国、ペルー)の保護者が4人いるが、そのことを話題に出す子どもは少なく、関心を持っている子どもが少ないのではないと思われる。さらに、3年生から書写の学習で、毛筆の指導が始まるが、授業の中で毛筆が我が国の文化の一つであるということに触れたが、そのことを知っていた子どもは少数であった。普段の生活の中で自分は当たり前と思っていたことが、他国では行われていなかったり、反対に自分の育ってきた環境の中で得た文化や伝統の概念が常識だと思ひ込み、自分とは違う文化や伝統の概念をもつ外国人やその生活スタイルを理解できずにいたりすることも見受けられる。そこで、他国の伝統や文化を理解できなくても、興味関心もち、理解しようとする意欲をもったり、もっといろいろな国の伝統や文化のことが知りたいという関心をもったりさせたい。また、内容項目に「親善と人類愛」とあるように、理解や、興味関心で終わるのではなく、「どうしてそうなのだろうか。」「何か理由があるのではないか。」といった相手のことを考える気持ちをもたせていきたい。様々な文化の違いについて知るだけでなく、自国と違う文化を持った外国の人とどう関わっていくか考え、その人やその国を大事に思う心を育てたいと考える。

子どもたちに外国への意欲や関心を持たせるためには、あまりなじみのない初めて目にする国の伝統や文化を多く紹介し、驚きや感動を与えてみてはどうかと考える。その

ために、映像や掲示物、板書などを工夫し、効果的な資料の提示方法を工夫する。また、子どもたちにとってわかりやすく、より深く考えることができるよう、子どもの実態に合わせ、理解の流れに沿った発問するなど、発問の仕方も工夫するとともに、「どうしてそうなのだろうか。」という疑問を持たせることで、「もっと知りたい。」という意欲につなげていきたい。また、自国と違う文化をもった外国の人のことを大事に思う気持ちを育てるために、展開の前半で「のりのおにぎり」という資料を使い、自国の文化が否定されたときの気持ちを考える。さらに、道徳の手法として役割演技を取り入れ、実際に否定された時の立場に立つことによって、より深く考えることができるようにする。

3 研究主題との関連

心の国際化から、共に生きる社会へ
—国際性豊かな児童生徒の育成を目指して—

「心の国際化」とは、外国や外国の人々の伝統や文化を大切にする心を持ち、偏見や嫌悪感をもたずに、互いに認め尊敬し合うことだと考える。そして、自国のことだけでなく異文化を認め、共生していこうという気持ちをもつことも大切である。しかし、子どもたちは自国の伝統や文化について、日常生活も含め学習の中で触れることや話題に出すことが少なく、はっきりと理解していない子が多いのではないかと考える。

そこで、心の国際化を図り、他国と共に生きるためには、まず自国のことを理解しなくてはならない。本単元ではまず、日本の伝統や文化を理解し誇りや尊敬の心をもつために、日本の伝統や文化とはどんなものがあるか、具体的な例を挙げ、理由や考えを発表し合う活動を行う。そして、自分の生まれた国について改めて考えることにより、尊敬や誇りの気持ちをもつことができるのではないかと考える。また、自国について理解を深めることで、「他国ではどうなのだろうか。」という気持ちから、他国の伝統や文化の理解へとつなげていきたい。そして、単に理解だけで終わらず、他国の伝統や文化についても尊敬し認め合い、共に生きていこうという気持ちを育てていきたいと考える。

そのために本実践では、次のような2つの視点を位置付けた。

<視点①>より広く深い国際感覚を身に付けさせるための指導構想の工夫。

<視点②>自国や他国の伝統や文化を理解し尊敬し、認め合おうとするための手立ての工夫。

4 指導計画

(1) ねらい

我が国の伝統や文化に関心を持ち、国を大切に愛する心を育てるとともに、外国の人々や文化にも関心をもつことができる。

(2) 指導の流れ

| 時 | 学習内容と活動 | 指導や支援の手立て |
|-----------|--|--|
| 1 | ○「日本発 世界行き」 ・自国の伝統や文化を良いものと感じ、それを大切にしようとする。 | ○日頃子どもたちが目にしているものが、世界中に広がっているという資料を取り上げることで、日本の良さに気付かせる。 |
| 2 (本時) | ○『のりのおにぎり (改作)』 ・外国の伝統や文化について理解し、それをその国の良さとして認めることができる。 | ○第1時の授業と関連させながら、自国と他国、お互いに異なる伝統や文化があることを知らせ、お互いの国々が仲良くするためにはどうすればよいのかを考えさせる。 |

(3) 視点との関連

<視点①>より広く深い国際感覚を身に付けさせるための指導構想の工夫。

○指導計画の前半では、自国の伝統や文化について理解するための活動を行う。第1時は、自分にとっては当たり前であった自国の伝統や文化が、他国から見ると珍しいことであったり、誇れることであったりするということを、参考資料を活用しながら見つけ、聴き合い活動をし、より多くの自国文化を知ることができるようにする。そして、第2時では、第1時を受け自国だけでなく他国の伝統や文化も知りたいという気持ちを持たせ、他国の伝統や文化について、資料や効果的な手法を使いながら、理解を深められるようにしていきたい。

また、本校での道徳の全体計画は、1項目につき1授業であるが、今回特別に国際理解の項目で2授業行なっている。これは、国際理解ということが1授業で終わるものではなく継続して行うことで身につくと考えていることや、自国文化の誇りや尊敬と、他国文化への興味関心というものが、2授業に分けて行う方が、より深く子ども達に考えさせることができると仮定したためである。そして今回の2授業で終わらせるのではなく、高学年に向けて、他国文化への「興味・関心」から「理解・認め合い」へとつなげていきたいと考えている。

○より深く多様な国際感覚を身に付けるためには、あらゆる方向から国際理解と関連付けた活動をする必要がある。そこで、他の教科や日常生活の中の活動と関連付けて道徳の学習を展開し、より理解を深められるようにしていきたいと考える。

| 総合 | 国語 | 学級活動 | 音楽 |
|---|--|---|---|
| <p>○世界のお菓子ってどんなもの？</p> <p>・世界にはどんなお菓子があるのか、その国はどんな国かを調べる。</p> <p>・なぜその国で生まれたのかを調べる。</p> | <p>○日本語のひびきにふれる。</p> <p>・俳句に親しむ。</p> <p>○ローマ字</p> <p>・ローマ字の表記について理解し、簡単な単語を読んだり書いたりする。</p> | <p>○朝の会</p> <p>・スピーチで外国の文化や生活に関する記事を紹介し、積極的に外国について知ろうとする。</p> | <p>○日本の音楽に親しもう。</p> <p>・音楽の特徴を感じ取りながら、おはやしを聴こう。</p> |

<視点②> 自国や他国の伝統や文化を理解、尊敬し、認め合おうとするための手立ての工夫。

○自国とは異なる他国の伝統や文化を理解し認めることができるように、子どもの実態に合わせ、身近なものや出来事を資料として取り上げ、より興味関心を持つことができたり、深く考えられたりすることができるようにする。

○他国の伝統や文化を紹介する場面では写真と同時に、実物を模範し作ったものを提示し、より想像しやすくできるようにする。さらに、そのような視覚的な資料を提示したあと、動作化を取り入れることで、イメージが膨らみ、より意見を出しやすくすることができるようにする。

5 本時の展開（2／2）

（1）ねらい

他国の伝統や文化について知り、自国とは異なる伝統や文化に興味・関心を持ち、それを否定しない気持ちを持つことができる。

| | 主な学習活動と内容 | 教師の支援 | 予想される児童の反応 |
|------------------|---|--|---|
| 導 入 | 1 前時の学習を想起し、自国の伝統や文化について話し合う。 ○外国に自慢できる、日本の良さや、素晴らしさはどんなところでしょう。 | ○日本の良さや、日本には多くの文化や伝統があることを知り、その上で、外国の伝統や文化にも興味をもったことを想起させる。 | ○漫画やカップヌードルは、日本から生まれた文化だよ。 |
| 展 開 前 半 | 2 資料「のりのおにぎり（改作）」（前半）を聞き話し合う。 ○どうしてたかしは、机の下におにぎりを隠したのでしょうか。 | ○場面絵を使うことによって、物語の世界に入り込み、文化を否定された時の気持ちを考えやすくする。 | ○悲しい・恥ずかしいから。 ○見られたくないから。 ○のりのおにぎりを持ってきたこと後悔しているから。 |
| 展 開 後 半 | 3 資料「のりのおにぎり（改作）」（後半）を聞き、他国の文化について考える。 ・中国では大皿に乗せた料理をみんなで分け合う。自分の箸でみんなに食べ物をよそってあげる。 ・韓国では、チマチョゴリを着ている時は右膝を立てて食べる。箸はステンレスでできている。スープとご飯はスプーンで食べる。茶碗は持たないで食べる。 ・インドでは右手でカレーを食べる。南部では、バナナの葉を皿がわりにして食べる。 ○みんなの発表を聞いて、たかしは心の中でなんと言ったでしょう。 | ○写真や、実物を模範し作ったものを提示しながら話を進めることで、どこの国がどんな食文化なのか、より想像しやすくできるようにする。 ○自分の考えをまとめやすくするために、ワークシートを使う。 ○はじめに聞いた時の率直な意見を出すことで、動作化したあとの気持ちの変化がわかりやすいようにする。 | ○おもしろい。 ○良いと思う。 ○やってみたい。 ○驚いた。 ○初めて知った。 ○行儀が悪い。 ○失礼だと思う。 ○汚い。変だ。 |

| | | | |
|-----------|---|--|--|
| <p>終末</p> | <p>●外国の文化を体験したとき、たかしは心の中でなんと言ったでしょう。</p> <p>4 本時を振り返る。 ○今日の学習を振り返りましょう。</p> | <p>○動作化をしてイメージが膨らみやすくなることで、より深く考えられるようにする。</p> <p>○学習を振り返り、今後の生活につなげられるようにする。</p> <p>○食文化だけでなく、他国には自国と異なる文化がたくさんあることを助言する。</p> | <p>○やってみたら普通だった。</p> <p>○その国では当たり前のことなんだ。</p> <p>○嫌だと思わなくなった。</p> <p>○みんな違っておもしろい。すごい。</p> <p>○文化はその人にとっては普通のことだから、悪く言わないようにする。</p> <p>○他の国の文化を大切にしたい。</p> <p>○日本にはない他の国の文化をもっと知りたい。</p> |
|-----------|---|--|--|

のりのおにぎり (改作)

(前半)

ぼくはたかし。アメリカの学校に来て、もう1年がたちます。ぼくの学校には給食がありません。今日ぼくは、お昼ご飯が待ち遠しくて仕方ありませんでした。だって今日は、家から大好きなおにぎりを持ってきていたからです。お母さんにお願いして、のりをたくさんまいたおにぎりを作ってもらったのです。

いよいよお昼ご飯の時間になりました。大きく口を開けておにぎりを食べようとしたとき、突然ミックが英語で

「うわっ、何それ。まずそう。」

と言って、気味悪わるそうにぼくのおにぎりを見ました。ジョンも嫌そうな顔をしながら

「日本人は、そんな真っ黒なもの食べるのかい？」

と言いました。

ショックでした。ぼくは何か悪いことでもしているかのように、机の下におにぎりを隠し、急いで食べました。

「ぼく、おにぎり大好きだけど、ばかにされたからもうぜったいもっていかない。」

家に帰ると、ぼくはさっそくお母さんにいいました。お母さんはとてもかなしそうなかおになりました。でも、お母さんは、

「のりのおにぎりは日本では当たり前のことで、日本の文化なのよ。」と言いました。

(ワークシートに記入)

(後半)

それからしばらくして、担任のレイア先生がこう言いました。

「このクラスには、外国から来た友達が何人もいます。今度その人たちに自分の国の食事や食事上の約束について紹介してもらいましょう。そして発表の最後の日には、みんなでそのことを体験してみましょう。」

みんな大喜びで拍手しました。

今日はその紹介をする日です。まずは中国から来たチャンくんが発表を始めました。

「ぼくの国では、テーブルに大きなお皿を置いてみんなでおはしでつついて食べるんだ。

それと、自分の箸でみんなに料理を取り分けてあげるんだよ。」

次の日は韓国から来たキムさんの発表です。

「これは韓国の女の人がお祝いの時などに着るチマチョゴリという服です。この服を着て食事をするときは、右ひざを立てて食べます。また、食事中お茶碗は持たずに食べます。

食事中使うのはステンレス製の箸とスプーンです。ごはんとスープはスプーンで食べます。」

その次の日は、インドからきたアジェイクんの発表です。僕の国ではカレーをスプーンのかわりに右手をつかって食べることがあります。食事の前に必ず手を洗い、口をすすぎます。ごはんは少しカレーをかけ、右手の指先でよく混ぜます。指は親指、人差し指、中

指の三本を使って食べます。指をそろえてスプーンのようにし、すくって食べます。それと南の方では、お皿のかわりにバナナの葉を使います。」

たかしはみんなの発表を聞いて、心の中でこう言いました。**(ワークシートに記入)**

みんなの発表が終わり、いよいよ明日は最後のたかしの番です。たかしはなんだか気分が重くなってきました。何を話していいか、少しも考えつかないのです。

(ぼくには紹介するものなんてないな。)

と思ったその時です。ぼくに頭の中にお母さんの言葉がうかびました。

「のりのおにぎりは、日本の文化なのよ。」

ぼくは勇気をだして、のりの話をすることに決めました。

発表の日、たかしは持ってきたタッパーの中から、のりを取り出しました。

「これはのりといいます。日本人が昔から大好きな食べ物で、海草からできています。ビタミンC、カルシウム、ミネラルなどがたくさん入っている、体に良い食べ物です。そしてとてもおいしいです。」

とたかしは説明しました。

そして今日は発表最後の日だったので、みんなでそれぞれの国の文化を体験することになりました。**(動作化)、(ワークシートに記入)**

ぼくはみんなと一緒にのりのおにぎりを作りました。おいしいという子、もっと欲しいという子。みんな嬉しそうに食べていました。僕の発表は大成功でした。今度のお昼ご飯では自信をもって、のりのおにぎりを食べようと思いました。